

湖北

人と本をつなげるきっかけを作ろうと木之本一箱古本市「いろはにほん箱」が11月6日、長浜市木之本町木之本の江北図書館前駐車場で2年ぶりに開かれた。

昨年はコロナ禍で中止となり、今年も当初9月の予定を2カ月延期して開催にこぎつけた。

古書店や市民が参加し、本だけでなく、コーヒー店なども含め23店が出店。密を避けるため、例年のような路地で

の開催は避け、店数も3分の1程度に抑えた。

絵本や文庫、図鑑、地図などさまざまなジャンルの本が並び、掘り出し物を探す客の姿も。おもちゃのダーツで出た得点で値段を決めるユニークな店もあった。

実行委員会の久保守容子代表は「たくさんの方の協力で開催できた。気軽に本に関わってもらいたい」と話していた。



2年ぶりの開催でにぎわった木之本一箱古本市

長浜

楽しみながら本との出会い 木之本で古本市

【長浜通信部・長谷川隆広】

城郭の図書1万2千冊公開 研究家・中井さん寄贈

長浜

長浜市立浅井図書館（同市大依町）は12月から毎月1回、日本城郭史研究家の中井均さん（滋賀県立大名誉教授）から寄贈を受けた関連図書約1万2000冊を一般公開する。

3月に寄贈を受け、同図書館2階を「城郭の館（中井均文庫）」として整備。11月26日に開館の式典があり、中井さんによる館名の揮毫や内覧会などが行われた。

図書は、国内で発刊された城郭関連の書籍や報告書がほぼ網羅されているという。

中井さんは「これを機に長浜から城郭研究を志す人が巣立ってほしい」と話した。



「城郭の館」の開館を祝い、花束を受ける寄贈者の中井均さん（右）

2021年度中は12月25日、1月22日、2月6日、3月5日に公開する予定。書庫の中に入ることはできず、目録から読みたい本を選ぶ。電話予約が必要。同市歴史遺産課（0749・65・6510）へ。

【長浜通信部・長谷川隆広】

湖東

彦根

パートナーシップ宣誓 第1号の2人に市が受領証



10月から彦根市が導入した「パートナーシップ宣誓制度」で第1号の宣誓があった。

LGBTなどの性的少数者のカップルを公的に認証する制度。市人権政策課によると、同様の制度は大阪府、京都市、東京都渋谷区など118自治体で導入されているが、県内では初めて。宣誓をしたカップルは、市営住宅入居や市犯罪被害者遺族見舞金などの手続きで夫婦と同様に扱われる。第1号となったのはmasy

uさんとmasaさん（いずれも仮名）。10月22日に市役所の市長室で和田裕行市長から宣誓書受領証を交付された。

2人はそれぞれ「この制度を導入してくださって本当にありがとうございます。ここにやんと市長に会えて感動しました」「どこに住んでいても大切な人と当然のように暮らせる世の中になればいいなと願います」などとコメントした。

【彦根通信部・伊藤信司】

福祉関係者のグループが新曲 YouTubeで動画

彦根

彦根市在住の作業療法士、田中孝史さん（41）が主宰する音楽グループ「エンパワメントレコーズ」が11月、新曲を発表した。タイトルは「Future of the world」。

「Future of the world」は医療介護福祉からのメッセージ。動画投稿サイト「YouTube」で「EPM2018」を検

索すれば約10分20秒の動画と曲を視聴できる。

グループは「医療介護福祉をポジティブに」を合言葉に、これらの分野に関わる仲間と2018年に発足した。今回は市役所職員、車椅子ラッパ、介護福祉士、柔道整復師など11人が集まり、新型コロナウイルス禍の中で前を向く気持ちを順々に歌っている。

最後には「Future of the world 踏み出す時」「暗闇を抜けたら強くなれたはずさ きつと」「怖くない一緒なら新しい未来へつなぐ」などと合唱している。

【彦根通信部・伊藤信司】